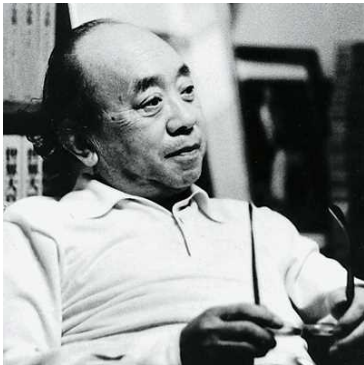


安曇野を愛し、「安曇野」という言葉を広めた教育家・編集者・評論家・作家

白井 吉見 (うすい よしみ) 南安曇郡三田村 (現堀金田尻) 出身

(吉見が活躍した時代) 1905年 (明治38年) ~ 1987年 (昭和62年) 享年82歳

明治		大正			昭和												
38	45	7	12	15	3	5	10	15	18	20	21	39	40	49	62		
安曇郡三田村の農家に次男として生まれる。	堀金小学校入学。 ※佐藤嘉市校長と出会う。	※同級生に古田晁。	松本中学入学。	松本高等学校入学。	東京帝国大学国文学科入学。	上伊那郡中箕輪実業補習学校の代用教員となる。	長野県伊那中学校へ転任。	高崎連隊に入隊、幹部候補生となる。	松本女子師範学校へ転任。附属小学校主事を兼ねる。	陸軍少尉として応召。	※古田晁が筑摩書房を創立。	古田晁らと総合雑誌「展望」を企画、編集長となる。	総合雑誌「展望」刊行。	小説「安曇野」執筆始める。	古田晁らと総合雑誌「展望」を企画、編集長となる。	復員。	七月十二日死去。



堀金田尻生まれ。東京大学国文学科を卒業後、県内外の教職を歴任し、東京女子大・東京高等学校 (現東京大学教育学部、教育学部附属中学校、高等学校) で教鞭をとる傍ら、親友古田晁の興した筑摩書房の経営を助けました。

1945年 (昭和20)、筑摩書房の総合雑誌「展望」初代編集長に就任し、“戦後の日本がどのようにしていったらいいか”や“肩書よりも中身が大事、どんな作品でも中身を吟味していいものを世の中に出していこう”という思いで取り組み、太宰治など多くの作家や評論家を世に出しました。また、自らも近代文学を中心に、個性的な文芸評論を発表し、「現代日本文学全集」等の企画編集に、敏腕ぶりを発揮しました。

1973年 (昭和48) に、10年の歳月をかけて完成した『安曇野』全5巻により、第10回谷崎潤一郎賞を受けました。

鋭い舌峰の半面、温かい人柄で親しまれ、大変な読書家で、時代を見る確かな目を持った秀れた評論家でした。

白井吉見文学館

安曇野地域住民ネットワークの方々を中心に、吉見の故郷である堀金に開館されました。

安曇野地域住民ネットワーク代表で、館長の内川美徳さんは、吉見の魅力を次のように語っています。「白井は、大きな物の見方ができ、歯切れよく物を言うことができる。」

また、吉見が1965年 (昭和40) に信州大学附属中学校や南安曇野教育会で講演した内容をまとめた「自分をつくる」(2008年)「続自分をつくる」(2011年)を刊行しました。

文学館には、「安曇野」の生原稿や吉見の生い立ち等に関わる貴重な資料が展示されています。

白井吉見博物館 〒399-8211 安曇野市堀金烏川 2701 番地
電話・ファックス：0263-72-6743



吉見が新しい精神の発見をしたと感じた佐藤嘉市校長との出会い

筑摩書房を創立した古田晁との生涯を通じた親交

郷土愛・堀金中学校の校歌を作詞

1953年 (昭和28) には、郷里の堀金中学校の校歌を作詞し、芥川也寸志の作曲により、今日に歌い継がれています。



吉見は、松本市立島内小学校の校歌も作詞しています。(1968年 (昭和43))

一新なる時代の夜明け
おのずから湧き出ずるもの
八重潮のあふるるまに
古くもいよ若やく
民族の力ゆたけし
われらの中学 堀金

二 げんげ田に白壁映えて
槍 徳高 常念ヶ岳
国ばらしとわにそば立ち
烏川流れさやけし
うるわしき安曇国原
われらの中学 堀金

三 目路高く遠くのぞみて
たしかなる一步を据えよ
ともどもに睦み信じて
ゆたかなる心をたもて
ちかいたる三とせの学び
われらの中学 堀金
堀金 われらが母校

参考文献等 「自分をつくる」「続自分をつくる」(白井吉見文学館) 「白井吉見文学館」展示資料
「安曇野市ゆかりの先人達」安曇野市HP 「時代を駆け抜けた安曇野人たち」中島博昭 あづみ野FM